

【施設状況】

グループ名称	もんぜんぷら座こども広場(じゃん・けん・ぽん)								
指定管理者名	特定非営利活動法人 ながのこどもの城いきいきプロジェクト				法人番号	6100005002075			
所管課	主	117000	保育・幼稚園課	副					
構成施設	もんぜんぷら座こども広場(じゃん・けん・ぽん)								
施設分類	06	保健福祉2型		施設利用者圏域	01	地域施設	利用制適用区分	01	代行制
施設概要	床面積860㎡ 遊び場、活動室、相談室、会議室、お昼寝室、授乳室、おむつ替えコーナー、こどもトイレ、親子トイレ(車いす対応)、受付、事務室								
施設設置目的	乳児及び幼児とその親子の子育てに対する悩みや不安を解消し、もってそれらの者の福祉の増進を資するため、子育て支援の拠点施設として設置する。								
基本方針等	指定管理者の創意工夫に基づいた管理運営により、質の高いサービスを利用者に提供するとともに、地域に根差した施設となることを目指す。								
主な実施事業	①子育て中の親とこどもの交流に関する事業 ②子育てに関する相談 ③子育てグループ等の育成 ④子育てに関する情報提供 ⑤遊びに関する指導助言 ⑥子育て情報誌の発行 ⑦子育て講座イベントの開催 ⑧ホームスタート事業 ⑨利用者支援事業 ⑩その他子育て支援に関すること								

【項目評価基準表】

評価	評価基準
5 (優れている)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上で、指定管理者のノウハウや努力等によるところが特に大きい
4 (良い)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上
3 (普通)	・協定、事業計画が予定どおり実施された
2 (劣る)	・協定、事業計画の一部が予定どおり実施されない ・管理運営の一部において、市の指導が必要
1 (悪い)	・協定、事業計画が全て実施されない ・管理運営の全てにおいて、市の指導が必要 ・市の指導を受けてもなお、全く改善が図られない

【評価項目】

1 指定管理者の健全性

指定管理者名	特定非営利活動法人 ながのこどもの城いきいきプロジェクト		当該指定管理者の 指定回数	4 回
指定期間	平成29年4月1日	～	令和4年3月31日	5年
			当該指定管理者の 管理運営開始日	平成18年4月1日
指定 管理 者 の 健 全 性	施設の設置目的や市が示した基本方針、また、自ら提案した内容に沿った管理運営であったか。 また、団体の財務状況や組織体制は、管理運営実績のある他施設での管理運営状況も踏まえ、良好で、健全か。			評価
	特記事項 (問題等があった場合に、 その内容等を記入)			4

施設利用状況 (利用者数、件数、稼働率など)		利用区分等	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	対前年比	評価
		利用者数	人	46,814	37,867	17,017	17,412	102%	4
		(内 出張広場参加者)	人	1,295	1,266	347	325	94%	
		新規登録乳幼児数	人	2,127	1,765	498	673	135%	
		専門家相談人数	人	481	663	323	310	96%	
		子育てコンシェルジュ相談数	件	—	908	2,999	3,483	116%	
		ホームスタート訪問家庭数	人	67	60	58	59	102%	
								#DIV/0!	
<p>(特記事項)</p> <p>広場の情報をSNS等で継続的に発信し、広場と親子が繋がっていることを伝え、困った時に頼れる場と思ってもらえることで、新規登録乳幼児数の増加に繋がった。また、日頃からきめ細かくコンシェルジュが相談に応じたり、休館中も必要に応じて来館してもらい、個別に対応するなど臨機応変に活動したことで相談件数が増加したと思われる。</p>									
事業実施内容	区分	協定内容・指定管理者提案			追加事業、未実施事業及び未実施の理由				
	市指定事業	① 子育て中の親とこどもの交流に関する事業 ② 子育てに関する相談 ④ 子育てに関する情報の提供 ⑥ 子育て情報誌の発行 ⑧ ホームスタート事業 ⑩ その他子育て支援に関すること			③ 子育てグループ等の育成、 ⑤ あそびに関する指導及び助言 ⑦ 子育て講座、イベントの開催 ⑨ 利用者支援事業(子育てコンシェルジュ)				
	自主事業	・講座の開催 ① プレママプレパパのためのペアレンティングセミナー ② ながのわくわくパパ講座 ・地域と連携した広場の開催 ① あそびましよう(東部保健センター 月2回) ② ゆりかごの会 ③ 子育てサロンぴーかーふー ④ サンサン広場(いずれも権堂イーストプラザ) ・スタッフ研修			③ 子ども広場 ・令和4年1月18日～令和4年4月17日 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため相談業務を除き、休館 ・休館中はオンラインによるあそびに関する指導や相談受付を実施 ・長野市保健所との協働事業「休日マタニティセミナー」が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1月～2月の間は中止となり、再開までの間、自主事業として初めて妊娠した夫婦を支援した。計4回28組参加。 ・令和元年東日本台風災害被災者支援の継続：休眠預金を活用し、子どもの居場所・リフレッシュプログラム・パパママサロン等を行い、保護者や子どもを支援				
サービス維持・向上の取組み(広報等)	休館中もFacebookやブログといったSNSを用いて、「あそび」の助言等を情報発信し、育児支援を行った。月間スケジュール、ホームページで毎日の広場の様子やお知らせを掲載し、利用促進を図った。週刊長野に「子ども親も生き生きと」を寄稿と子育て支援の情報を月1回提供 広場から遠い親子や多胎児を育てる子育て世帯からの要望に応じて、出張広場を実施								

3 利用者評価

利用者評価		区分	内容	評価
利用者評価	利用者要望把握	(1) 利用者要望把握方法	利用者アンケート	4
		(2) 調査、会議等の内容	・長野県立大学学生の卒論研修のためのアンケートに協力し、利用者の声を収集 ・ホームスタート事業利用者アンケート:利用の前後にアンケート調査し、充足度を調査(調査対象家庭数45家庭) ・講座等アンケート:各講座終了時にアンケート調査、更に一人ひとりから感想や要望等の聞き取り(パパ講座等) ・施設内に「利用者の声コーナー(投書箱)」設置し、利用者の声を把握するようにした。	
(3) 調査、会議等の結果	【子ども広場】 ・利用者からの投書には、一人ひとりに返答するようにしている。 ・講座等のアンケート結果は、次回の講座運営に生かした。 【ホームスタート・講座等】 ・運営の参考や講座のニーズの参考として利用			
利用者からの評価・苦情等	利用者からの評価	(1) 良好とする評価	【子ども広場】 ・じゃん・けん・ぼんのような施設はありがたい。スタッフも優しく接してくださり、イベントも多く親子共々何回も利用している。 ・転入者向けの、ウェルカム交流会(転入者子育て交流会事業)のような集まりがありがたい。 ・いろいろなイベントを通して、ママ友ができた。子育ての情報などを共有でき、子育てが楽しくなった。 【ホームスタート】 ・利用した45家庭の99%以上が満足と回答	
		(2) 苦情・改善等の要望事項	【子ども広場】 ・コロナ禍で仕方がないが、時間制限があったり、水分補給以外飲食ができなかったりするのが不便。 ・パパ講座では、毎年公園での親子遊び講座があったが、今年はできなく残念だった。	
		《対応措置》	・アウェイ育児の不安や孤立感を解消するためにウェルカム交流会を実施したところ、同じような環境の親子と親しくなりその後の交流につながった。 ・コロナ禍での広場の過ごし方については様々な制約があるが、利用者には丁寧に説明し、お互いに安心安全な環境で過ごしてもらえるよう、声かけをしている。パパ講座も外遊びを計画した時期とコロナの感染拡大期が同じ時期になり、外遊びの講座ができなかった。希望も多いことから、来年はコロナの感染状況を見ながら、タイミングを計って実施したい。	

事業収支 (単位:円)	指定管理者収支(令和3年度)				市の収支				評価
	年度計画額		収支実績額		令和3年度決算		令和2年度決算(前年度)		
	項目	金額	項目	金額	項目	金額	項目	金額	
収入	利用料金		利用料金		使用料		使用料		歳入
	指定管理料	23,974,000	指定管理料	23,974,000	雑(納付金)		雑(納付金)		
	委託料		委託料	334,290	行政財産目的外使用料		行政財産目的外使用料		
	販売収入等		販売収入等		貸付料		貸付料		
	その他収入	78,000	その他収入	66,552	その他		その他		
	広告料収入	100,000	広告料収入	76,890	国・県補助金	12,054,000	国・県補助金	10,855,000	
	補助金	0	補助金	1,078,339					
計	24,152,000	計	25,530,071	計	12,054,000	計	10,855,000		
支出	人件費	17,598,000	人件費	18,516,447	指定管理料	23,974,000	指定管理料	23,974,000	歳出
	設備管理費	300,000	設備管理費	452,126	委託料		委託料		
	備品購入費	600,000	備品購入費	495,622	需用費		需用費		
	修繕費	103,000	修繕費	40,150	役務費		役務費		
	光熱水費		光熱水費		使用料・賃借料	1,806	使用料・賃借料	4,128	
	事業費	2,579,000	事業費	3,031,238	修繕費		修繕費		
	事務経費	1,872,000	事務経費	1,166,099	工事請負費		工事請負費		
本社経費		本社経費		備品購入費		備品購入費	297,000		
その他	1,100,000	その他	1,103,900	その他		その他			
補助金		補助金		補助金	1,078,339	補助金			
計	24,152,000	計	24,805,582	計	25,054,145	計	24,275,128		
自主事業	収入		収入						
	支出		支出						
	自主事業損益	0	自主事業損益	0					
損益		0		724,489	差引	-13,000,145		-13,420,128	
人件費比率【人件費(賃金等)／令和3年度指定管理者事業支出】(支出に占める人件費の割合)								74.6%	
本社経費が、計画額と実績額で異なる理由									

5 管理運営全般 ※ すべて  で、「3」、「4」、「5」とする場合は、評価理由欄に理由を記載してください。

区分	確認内容	チェック欄	評価
職員配置	1 施設管理運営に必要な人員が、適正で有効に配置されているか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	配置実績 (うち市内雇用職員数) 運営責任者1人(1)、副責任者2人(2)、チーフスタッフ3人(3)、スタッフ11人(10)、コンサルタント1人(1) 合計 18人(17人)		
	2 専門性を備えた職員、有資格者が必要に応じて配置されているか		
	3 労働関係法令を遵守し、職員の適正な労働条件を確保しているか		
平等利用	4 職員の資質・能力向上を図り、施設を適切に運営するための取組みや研修がなされたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	1 特定の団体や個人に偏らない、公平・公正な、透明性の高い運営がなされたか		
経理	2 使用許可、減免等の事務手続きが適切に行われたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	1 施設の管理運営に係る収支の内容や、指定管理料、利用料金等の取扱いは適切に行われたか		
施設・備品の維持管理	2 収支内容等を記載した帳簿を整備しているか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	1 必要とされている保守、点検、清掃、保安、警備等、必要な維持管理業務が確実に実施されたか		
セルフトラッキング等	2 備品はⅠ種、Ⅱ種を明確にし、それぞれ台帳、目録等を整備の上、管理が適正に行われたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	1 日常的、定期的に業務の点検、監視が行われたか		
	2 事業計画・報告書、予算書・決算書や、施設の利用状況などの定期報告、点検・検査結果報告などが遅滞なく提出されたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4

区分	確認内容	チェック欄	評価	
危機管理体制	1 危機管理マニュアルなどが整備されているか	☑	3	
	2 危機管理マニュアルなどの内容が職員に周知されているか			
	3 常に、日常の事故防止などに注意を払っているか			
	個人情報保護 1 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切であったか	☑		
	防犯、防災対策	1 防犯、防火などの対策、体制が適切であったか		☑
		2 防災訓練など、必要な訓練が実施されたか		
緊急時対応、体制	1 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか	☑		
	2 必要な保険に加入するなど、利用者などからの損害賠償請求への対応措置が講じられているか			

7 地域連携

地域連携	評価				
<p>地域の声を聞く体制や、協働で地域貢献ができる運営であったか。市内雇用や市内事業者から物品を購入する等、地域を活用した管理運営であったか。障害者就労施設等からの物品及び役務の調達に努めたか。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>協定内容・指定管理者提案</th> <th>追加された内容、未実施の内容及びその理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元商店街主催行事や地元NPO等の行事等への積極的参加(ゆめ灯り絵展、地域まるごとキャンパス等) 地元事業者と協力して子育て講座の開催(散髪講座)</li> <li>・地域のシニア層との交流(折り紙教室、シニア大学への情報提供)</li> <li>・教育機関との連携事業(長野県立大学、清泉女学院大学・短大、中学校、高等学校、長野看護専門学校)</li> <li>・地元商店街からの物品購入等に努めた。</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「花回廊」や「権堂七夕まつり」など、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止になったが、ゆめ灯り絵展のみ出展。</li> <li>・地元の第4地区民として来年度から、より連携し活動できるよう区費を払い、地元の行事等に参加しやすい体制作りをした。</li> <li>・地域担当の権堂交番(協力:長野中央警察署)と連携し、不審者対策についての防犯訓練を実施した。</li> <li>・洪水時の避難計画を見直し、避難所になる鍋屋田小学校に協力を依頼した。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	協定内容・指定管理者提案	追加された内容、未実施の内容及びその理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元商店街主催行事や地元NPO等の行事等への積極的参加(ゆめ灯り絵展、地域まるごとキャンパス等) 地元事業者と協力して子育て講座の開催(散髪講座)</li> <li>・地域のシニア層との交流(折り紙教室、シニア大学への情報提供)</li> <li>・教育機関との連携事業(長野県立大学、清泉女学院大学・短大、中学校、高等学校、長野看護専門学校)</li> <li>・地元商店街からの物品購入等に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「花回廊」や「権堂七夕まつり」など、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止になったが、ゆめ灯り絵展のみ出展。</li> <li>・地元の第4地区民として来年度から、より連携し活動できるよう区費を払い、地元の行事等に参加しやすい体制作りをした。</li> <li>・地域担当の権堂交番(協力:長野中央警察署)と連携し、不審者対策についての防犯訓練を実施した。</li> <li>・洪水時の避難計画を見直し、避難所になる鍋屋田小学校に協力を依頼した。</li> </ul>	4
協定内容・指定管理者提案	追加された内容、未実施の内容及びその理由				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元商店街主催行事や地元NPO等の行事等への積極的参加(ゆめ灯り絵展、地域まるごとキャンパス等) 地元事業者と協力して子育て講座の開催(散髪講座)</li> <li>・地域のシニア層との交流(折り紙教室、シニア大学への情報提供)</li> <li>・教育機関との連携事業(長野県立大学、清泉女学院大学・短大、中学校、高等学校、長野看護専門学校)</li> <li>・地元商店街からの物品購入等に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「花回廊」や「権堂七夕まつり」など、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止になったが、ゆめ灯り絵展のみ出展。</li> <li>・地元の第4地区民として来年度から、より連携し活動できるよう区費を払い、地元の行事等に参加しやすい体制作りをした。</li> <li>・地域担当の権堂交番(協力:長野中央警察署)と連携し、不審者対策についての防犯訓練を実施した。</li> <li>・洪水時の避難計画を見直し、避難所になる鍋屋田小学校に協力を依頼した。</li> </ul>				

【総合評価】

評価項目	評価	得点	総合評価
指定管理者の健全性	4	8	<div style="text-align: center;"> <p>総合評価</p> <p>74</p> <p>----- 基準値</p> </div>
施設の有効活用	4	16	
利用者評価	4	16	
事業収支	3	6	
管理運営全般	4	8	
危機管理体制	3	12	
地域連携	4	8	

評価理由	<p>・「指定管理者の健全性」については、設置目的や運営方針を踏まえ、利用者に寄り添った運営がされていることや組織体制が安定していることから「4」とした。</p> <p>・「施設の有効活用」については、閉館中も、オンラインによる情報発信や相談対応や、自主事業として妊娠した夫婦の支援をするなどしていることから「4」とした。</p> <p>・「利用者評価」については、利用者からの苦情等に対し、スタッフ内で改善点を話し合い、広場内掲示板に掲示するなど迅速に対応している点から「4」とした。</p> <p>・「管理運営全般」については、専門性を備えた職員が多く、利用者の相談に対応できている点や館内の消毒や清掃も適切に行われていることから「4」とした。</p> <p>・「地域連携」については、異年齢交流として地域のシニア講師による折り紙講座を開催し、評価が高かったことや、より地元との連携を深めるために努めたこと、もんぜんぶら座が行うイベントにも積極的に参加している点を評価し「4」とした。</p>
------	--

	前年度からの課題	改善状況	改善案等(改善されていない場合)
取組み・改善案等(施設所管課)	<p>・子ども広場における子育て相談や子育てコンシェルジュ、訪問型子育て支援など各相談窓口が連携し、利用者が利用しやすい施設運営を行う。</p>	<p>・入退館管理のICT化をした。</p> <p>・オンラインじゃん・けん・ぼんやオンラインねんねの会などで相談を受け付けた。</p>	

次年度の目標・取組み等(施設所管課)	<p>・令和4年度に設立した、子ども総合支援センターと連携し、子育てに不安や心配を抱えている子育て世帯の支援体制を整える。</p> <p>・引き続き、地域の新型コロナウイルスの感染状況に配慮し、利用者が安心・安全に利用できる施設運営を維持する。</p>
--------------------	--

指定管理者自己評価

(1) 今年度の取組みに対する評価

① サービス向上に向けての取組み

- ・コロナ禍での対応…
  - ・常に衛生管理に気を配り、来館者が安心安全に利用できるような細心の注意を払った。1日3クールで終了毎に館内やおもちゃの消毒及び交換して実施。
  - ・感染状況に合わせ、1クール毎の利用者数の上限を増減させ、自宅に引きこもりがちな親子に少しでも多く利用してもらえるよう工夫した。
  - ・臨時休業中、自宅で自粛している親子向けにFacebookで動画を配信。(手遊びや体遊び、絵本の読み語り、パネルシアターなど。1月～3月でリーチ数14,644件)
  - ・Zoomを利用した「おしゃべり会」や「ねんねの会」「オンラインじゃんけん・けんぽん」を実施し、自宅での親子の時間を支援した。
  - ・訪問型子育て支援事業は、コロナ禍においても利用家庭は減少せず、昨年以上の申込があり訪問数は年間59家庭399回
  - ・中止となった休日マタニティセミナーについて、自主事業として開催し支援をした。独自にフォローアップセミナーを開催。希望家族(4回28組)に助産師が対応
  - ・子育てコンシェルジュの充実…外出自粛等により子育てに関する不安が多く見受けられ、休館中にも電話による相談、飛び込み相談等臨機応変に対応した。
- また、保健センター・支援センター、各地域の住民自治協議会福祉部会など地域と連携体制を整えるとともに、地域資源の開発を図った。(相談総件数5,732件、うちコンシェル対応件数3,483件と約60%に上る。)
- ・危機管理体制の強化
  - ・権堂交番(長野中央警察署)と連携し、不審者対策についての防犯訓練を実施し、不審者対応マニュアルを作った。
  - ・洪水時の避難確保計画を確認し、所管課と協議し見直した。(垂直避難が可能となった。)
- ・広報の充実:各支援センターや保健センターの場所を示した拡大した市内地図を掲示し、自宅近くの子育て支援の場を紹介し、利用につなげるよう声がけも行った。

② 業務の効率化に対する取組み

- ・コロナ感染防止のため、対面でのスタッフ全員ミーティングがなかなか開催できなかったが、スタッフ研修でZoomの使い方を曜日別に学び、リモートでスタッフミーティングを実施した。パート職員にも確実に情報が届き、日々の業務がスムーズに行うことができた。
- ・来館者への紙ベースの情報提供を極力削減した。チラシをA5判にし、配布。小さく持ち帰りやすいと好評。さらにWEBでの情報発信も積極的にを行い、月間スケジュールにQRコードを付けるなど利用者がアクセスしやすいように工夫した。
- ・「先生おしえて」等専門家による講座の講師を法人関係者に依頼し実施。また、子育て講座にはスタッフの資格、「わらべうたベビーマッサージ」指導者5名、JPIC読書アドバイザー2名、公認コアキッズ体操普及員4名、NP認定ファミリーテーター5名を活用し、謝金等経費の削減に努めた。講座はボランティアと連携し年間377人の協力があつた。
- ・内部的な印刷物には裏紙を使う、文房具品等を安価な業者より購入する等、また手作り遊具を作成する際も空き箱やあまり布などを利用し、日常的に経費削減を意識している。

③ その他

- ・新型コロナ禍での対応…
  - ・1年を通して、感染症対策が課題であった。国、県、市の対応を逐次情報収集し、また所管課と協議し適切に対応することができた。今後もこのような災害などが起こった場合を想定し、スタッフの行動マニュアルや危機管理マニュアル等に添った、スタッフ対応のシミュレーション等が課題である。
  - ・開館について、感染状況と照らし合わせ、利用人数や利用時間について所管課と協議しながら、親子が利用しやすいような対応をする。予約や入館時の対応の簡略化に向け、ICTの導入。
  - ・利用制限しているため、広場の利用者の減少に繋がっていると思われる。0～1歳までの広場利用が多い中、親子に寄り添える支援の在り方を検討する。
  - ・外出自粛により孤立して子育てに悩んだり、外に出て来れないケースが散見される。訪問型子育て支援「ホームスタート」、法人他事業(子育てサロンびーかーぶー)、WEBを活用した支援からリアルな支援へ等、一人ひとりの状況に合った支援をしていきたい。
  - ・自宅時間が長く、子育ての孤立感を訴える親子に子育てコンシェルジュが個別対応で相談に当たり、成果が出ている。訪問型子育て支援事業やファミリー・サポート・センターなどと連携を図り、より多くの市内の子育て世帯に対応できるように広報をした。
  - ・スタッフ配置…利用者のニーズに添ったサービスの提供や、施設の安全性を高め、安心して来館できるようスタッフを配置しているが、勤務時間等によりスタッフの確保に苦慮している。

(2) 指定管理者業務実施上の課題

- ・新型コロナ禍での対応…
  - ・1年を通して、感染症対策が課題であった。国、県、市の対応を逐次情報収集し、また所管課と協議し適切に対応することができた。今後もこのような災害などが起こった場合を想定し、スタッフの行動マニュアルや危機管理マニュアル等に添った、スタッフ対応のシミュレーション等が課題である。
  - ・開館について、感染状況と照らし合わせ、利用人数や利用時間について所管課と協議しながら、親子が利用しやすいような対応をする。予約や入館時の対応の簡略化に向け、ICT化により入退館管理を行う。
  - ・利用制限しているため、広場の利用者の減少に繋がっていると思われる。0～1歳までの広場利用が多い中、親子に寄り添える支援の在り方を検討する。
  - ・外出自粛により孤立して子育てに悩んだり、外に出て来れないケースが散見される。訪問型子育て支援「ホームスタート」、法人他事業(子育てサロンびーかーぶー)、WEBを活用した支援からリアルな支援へ等、一人ひとりの状況に合った支援をしていきたい。
  - ・自宅時間が長く、子育ての孤立感を訴える親子に子育てコンシェルジュが個別対応で相談に当たり、成果が出ている。訪問型子育て支援事業やファミリー・サポート・センターなどと連携を図り、より多くの市内の子育て世帯に対応できるように広報をした。
  - ・スタッフ配置…利用者のニーズに添ったサービスの提供や、施設の安全性を高め、安心して来館できるようスタッフを配置しているが、勤務時間等によりスタッフの確保に苦慮している。

(3) 総合評価

評価基準

- 【A】計画や目標を大きく上回る 【B】計画や目標を上回る 【C】計画や目標どおり  
 【D】計画や目標を下回る 【E】計画や目標を大きく下回る

指定管理者  
自己総合評価

A

① 評価理由

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止による休業中も子育て中の親子への支援等、緊急時に速やかに支援の提供ができた。
- ・ワークキットを希望者に送付したり、スタッフ手作りの牛乳パック動物などを個別配布した。
- ・自宅と広場がいつでも繋がっているという発信を常に心掛け、オンラインシステムを利用し、「おしゃべり会」、「ねんねの会」、更に一緒に子育てを楽しむ機会として「オンラインじゃんけん・けんぽん」を開催した。
- ・アウェイ育児の核家族向けにウェルカム交流会を実施。人数制限をして開催したため、例年より回数を増やしたことで、子育て家族の拠り所となっている。
- ・一場所多機能の活用…拠点型こども広場事業、ホームスタート事業、利用者支援事業、併設されている長野市ファミリー・サポート・センター事業等多機能を有し、それらを活用した支援を長野市子育て支援課、保健所、中央児童相談所等専門機関や主任児童委員協議会等地域連携の中で行い、子育て中の市民からの問い合わせも多く、地域の子育て支援の中核となり喜ばれている。
- ・利用者参加の子育て支援…地域の子育て中の父親を実行委員として「ながのわくわくパパ講座」4回開催。主体的にZoomによる講座を開催し、コロナ禍での父親の役割や普段の悩み事などをお互いに共有。父親の子育て参加の支援ができた。

② 次年度以降の取組み

- ・ICT化、SNSの活用について
  - 入館システムを導入し、利用者カードを作り、入退館の管理を行う。コロナ禍において、広場の利用時間の管理にも活用。来館目的や広場の情報の入手先等、種々のデータの生かし方を検討。また、現在Facebookを利用し、情報発信をしているが、今の若い母親世代はInstagramの利用者が多いことから、Instagramを立ち上げ、広場の情報が届きやすいように工夫する。Withコロナでのオンラインの活用を検討し、利用の促進につなげられるように工夫する。
- ・利用者支援事業・ホームスタート事業の充実
  - 次年度は常勤のコンシェルジュを配置し、よりきめ細やかな相談を目指す。各担当者がより一層利用者の声に応えられるよう研修の機会を増やすなど人材作りを行う。
- ・求められる広場づくり
  - コロナ禍においても、困った時や何かあった時などいつでも相談できる広場としての役割を再確認し、選ばれる広場となるために常に利用者のニーズ把握することや新規利用者を増やすための施設運営に努める。
- ・父親の育児制度が整いつつある中、父親の役割が重要視されてきている。また、地域の中で子育てを手伝ってくれる身近な人がいない家庭も増えてきている。さらにコロナ禍でうち時間が長くなっている現状もある。「ながのわくわくパパ講座」や「ペアレンティングセミナー」等の充実を図り、パートナーとともに子育てを楽しめるよう支援する。